

フリー便風

(現場)からの風

宮田 守男

明日23日は24節季で
は「大暑」で、文字通り夏のもっとも暑い時期に当たるが、続いた曇天は訪れたお客様に山岳美の眺望を見せる

事が少なかった。また農作物の栽培でも日照不足などで大きな影響を与えた。だが全国的に蝶が少ないとの有難い情報もあった。熊などの被害も影響するのか、養蜂家が減少している影響なのか、今年も蜂の姿を見ることができない。

米国の行動生態学者の試算では、1匹のミツバチ(働き蜂)が一生を集める蜂蜜の量は小さなスプーンで一杯分、5グラム程度。そのためミツバチは1回平均25分飛行して、約500個の花を回る

限りず、ほんの少しだけ想像力を働かせ、その有難さや難しさを想像してほしいと蜂の行動を紹介した。農作物の花に蜂を見かけると、思わず「大変な作業が苦労様」と声を掛けてしまいたくなってしまう。

その「7」が強く印象に残った式典が英國

入りのビンに蜂蜜を詰めるには、合計で1万73330回、延べ720時間かけて約870万個の花を廻った結果で、大変な作業量の恩恵をいただいていると山陰中央新報のコラム明透さんが食べ物に

7月は我が家にどうても特別な月だ。5人家族の内7月生まれが3人、愛犬も7月生まれだ。なぜか「7」には特別な感情を抱く事が多い。「7」は古代から神祕的な数字ときがが多い。両手の指に

で挙行された。今年はエリザベス女王の在位70年を祝う「アラチナ・ジュビリー」で英国民が沸く映像を観ることができた。結婚記念と同様に25年の銀、50年の金、60年のダイヤモンドに続く式典

の靈を送ります」のメッセージやコロナ禍のロックダウンにあえぐ國民へ、「心を一つにすれば必ず乗り越えられます。皆さんとまた

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

会うのです」の自然体の言葉は、どんな詭弁な言葉にも勝っているのだね。



佐野地区玄関に造園された花壇。地域を想う心が強く伝わってくる。